

当映画祭ディレクターの木全純治さんに、今年の見所を語っていただきました。



映画祭ディレクター
木全純治氏

★今年の見所

1996年から始まったあいち国際女性映画祭は、今年で25回目を迎えます。国内唯一の国際女性映画祭として、今年も多彩な作品を上映します。

オープニング作品『若者の光』は、韓国の深刻な就職難や格差社会を背景に、若者たちが抱える苦悩をリアルに描いた作品です。クレジット会社のコールセンターでインターンとして働く高校生が、仕事に疲弊し、ある出来事をきっかけに失踪します。コールセンターのマネージャーはノルマの重圧にあえぎ、彼女の娘もまた就職先が見つからず絶望感にとらわれています。

これは韓国だけではなく、日本にも通じる問題になります。シン・スウォン監督は、テーマをしっかり見つけ、見せこむ力のある実力派の監督です。



『若者の光』

『チャンシルさんには福が多いね』も韓国の作品。映画プロデューサーのチャンシルは、仕事を失い日々の生活が苦しくなります。そんな彼女の奮闘を、コメディタッチで描いています。本作のキム・チョンヒ監督は、名匠ホン・サンス監督のプロデュー

サーを長く務め、韓国映画の製作に理解が深く、映画界の裏の実情が垣間見られます。



『チャンシルさんには福が多いね』
2019 Copyright © KIM Cho-hee All RIGHTS RESERVED/
ReallyLikeFilms

台湾作品の『大いなる餓え』は、無理なダイエットを続ける女性が心身ともに蝕まれていくという重い題材にも関わらず、ユーモアを交えた、独特な雰囲気をもった作品です。台湾社会には笑いを含む余裕があり、社会派のテーマを描いても、ほのぼのとした世界を描けるところが魅力的です。



『大いなる餓え』

台湾はここ10年ほど、映画市場を開拓、維持し、女性監督も活発に活動しています。この良い状況はウェイ・ダーション監督の『海角七号／君想う、国境の南』（2008年）の大ヒットから始まっています。30代の女性監督たちが、身近な現実を非常にうまくとらえる視点を確立したと感じます。

『花椒の味』は、香港の作品です。香港に住むユーシューは、父の葬儀で台北と重慶で暮らす二人

の異母姉妹と初めて顔を合わせます。三人は意気投合し、父が経営していた火鍋店のスープのレシピを探しながら、父の記憶をつなぎ合わせます。

今、香港は非常に厳しい状況にあります。ヘイワード・マック監督の、厳しい現実とは裏腹に、理想をもって香港の未来を生きていきたいという願いが込められています。台北、重慶、香港を舞台にしていますが、その中心に香港がある、という深読みができる作品です。香港の自由を大切にしていきたいという想いは切実です。



『花椒の味』
Courtesy of Media Asia International Distribution

『ラ・カチャダ』は、当映画祭初となるエルサルバドルの作品です。日々ぎりぎりの生活を送る5人のシングルマザーたちが劇団を立ち上げますが、練習を重ねるうちに、過去のトラウマや自己の内面に向き合うことになります。女性への暴力や暴力の連鎖など社会の暗部を浮き彫りにするとともに、痛みに向き合い行動を起こした彼女たちから多くのことを教えられるドキュメンタリーです。



『ラ・カチャダ』
山形国際ドキュメンタリー映画祭提供

クロージング作品の韓国映画『ハラボジの家』は、ソウル国際女性映画祭とのつながりから紹介された作品で、少女の視点から3世代の家族を静かに描い

ています。ある夏、10代の少女オクジュと弟のドンジュは、父親が事業に失敗した後、父親と一緒に祖父の家で暮らし始めます。幼い弟は新しい環境にすぐに馴染みますが、オクジュは居心地の悪さを感じています。離婚寸前の叔母まで住みつき始め、次第にオクジュの中でこの家と祖父の存在が大きくなっていきます。

ユン・ダンビ監督はこれが初長編作品であり、この作品で第24回釜山国際映画祭のNETPAC賞他、3部門を受賞しています。映画的な瞬間を切り取る瑞々しい感性で、今後の活躍が期待される韓国の若手監督の一人です。



『ハラボジの家』
©2019 ONU FILM, ALL RIGHTS RESERVED

★近年の映画祭を振り返って

当映画祭の上映作品は、社会的テーマがしっかりしていること。エンターテインメント性も重要視しています。テーマが自然と浮き出てくることが大切と考えています。

近年、当映画祭のコンペティション部門には、高いレベルの作品を多数ご応募いただき、続けてきた成果が出てきています。しかしその後、女性監督たちが、長編映画の監督や職業としての監督になりきれていないことが課題です。広い視野を持ち、イマジネーションを働かせて、社会問題に鋭く切り込むダイナミックな作品が製作されることを期待します。

新型コロナウイルスの影響で映画業界が苦境に立たされる中、温かい励ましのお言葉をたくさんいただいています。今年も当映画祭では、国内外の多彩で魅力的な作品を多数上映いたします。世界の多様な文化や社会問題に触れることができる貴重な機会を是非お楽しみください。